

相続税概算を早期に行い、課題の見える化しよう(フォーマット例)

(単位：千円)

相続財産	財産名	内訳	換金性	遺留分該当性	合計額	法定相続人		
						配偶者	長男	次男
相続財産	預金	A銀行	高	Y	200,000	100,000	50,000	50,000
	非上場株式	甲社株式		Y	5,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000
	株数(株)				100	60	20	20
	宅地	居住用		Y	100,000	100,000		
	小規模宅地等の減額				▲ 80,000	▲ 80,000		
	建物	居住用		Y	50,000	50,000		
	生命保険金	B保険	高	N	300,000	100,000	100,000	100,000
	非課税分				▲ 15,000	▲ 5,000	▲ 5,000	▲ 5,000
	退職金			高	20,000	10,000	5,000	5,000
	非課税分				▲ 15,000	▲ 5,000	▲ 5,000	▲ 5,000
相続時精算課税適用財産								
非上場株式	乙社株式		Y	500,000	0	250,000	250,000	
株数(株)				100	0	50	50	
相続時開始前3年以内贈与								
現金			Y	0	0	0	0	
財産 小計				6,060,000	3,270,000	1,395,000	1,395,000	
債務	借入金	a銀行		▲ 110,000	▲ 110,000			
債務 小計				▲ 110,000	▲ 110,000	0	0	
A)課税価格				5,950,000	3,160,000	1,395,000	1,395,000	
A)割合				100.0%	53.1%	23.4%	23.4%	
B)基礎控除額				▲ 48,000				
C)課税遺産総額(A-B)				5,902,000				
D)法定相続割合				100%	50.0%	25.0%	25.0%	
E)法定相続割合で按分(C×D)				5,902,000	2,951,000	1,475,500	1,475,500	
F)税額				3,030,100	1,551,050	739,525	739,525	
実際の相続割合で按分(F×A')				3,030,100	1,609,263	710,418	710,418	
贈与税額控除				▲ 90,000	0	▲ 45,000	▲ 45,000	
配偶者の税額控除				▲ 1,515,050	▲ 1,515,050			
納付税額				1,425,050	94,213	665,418	665,418	

株式評価額が高く、課税価格を押し上げている。換金性も乏しいため、計画的な評価額引き下げや事業承継税制適用の検討が必要

納税資金判定							
相続財産のうちすぐに現金化可能なもの				520,000	210,000	155,000	155,000
納付税額				1,425,050	94,213	665,418	665,418
判定					OK	NG	NG
遺留分侵害判定							
遺留分概算				2,880,000	1,440,000	720,000	720,000
遺留分対象財産価額				5,760,000			
遺留分割合				-	25.0%	12.5%	12.5%
相続する財産価額				6,060,000	3,250,000	1,405,000	1,405,000
判定					OK	OK	OK

現在の課税遺産総額、相続配分を前提とした場合の各人の相続税納付税額を把握。納税資金判定の基礎となる

長男、次男の納付税額を相続財産で賄えない状況。相続財産の流動化や相続財産配分の検討が必要

遺留分の評価額と相続税評価額は異なるため、厳密な計算が別途必要であるものの、遺留分侵害可能性の大枠把握が可能